

臨床研究に関するお知らせ

「**消化器癌に対する化学療法導入患者の転倒の有無と予後の関係**」に関する後ろ向き研究へのご協力をお願い

当愛媛県立中央病院・消化器病センター（消化器内科・消化器外科）では、担癌患者さんに適切な検査を心がけることでよりよい治療の提供を目標として、画像診断や検査内容についてさまざまな臨床的検討を行っております。このような研究活動の基礎となるのが、実際に当院を受診された患者さんの診療録（カルテ）の情報です。患者さんの診療録に記録されている各種の臨床情報、検査結果、治療内容と経過などの医学情報は、治療成績解析のために大変貴重なものです。

近年、消化器癌（食道癌・胃癌・胆道癌・膵癌・大腸癌など）の患者さんは高齢化が進み、特に75歳以上の症例ではフレイル（加齢や疾患により心身の機能が低下した状態）傾向にあることが知られています。

抗癌剤や免疫療法といわれる化学療法の実施には体力や栄養状態が深く関わり、治療を安全かつ継続的に行うためには、副作用(有害事象)や体力低下のリスクを事前に把握することが重要です。体力や筋力が低下すると転倒する危険性が高まり、化学療法の継続の阻害要因となる可能性があります。

当院では入院時に転倒リスク評価を行っています。本研究では、化学療法導入時の転倒の既往の有無と、その後の治療継続率や予後との関連を明らかにすることを目的としています。

1. 対象

当院消化器病センターに入院、初回化学療法導入した患者様を研究の対象といたします。

2. 方法

診療記録を閲覧しながら、患者さんの個人情報排除して、主病名、検査所見、治療内容、臨床経過、入院時の転倒リスクなどの医学情報の解析を実施して、一次治療の完遂率や治療経過における副作用(有害事象)の発現や治療反応を評価します。

3. 研究における倫理的配慮について

本研究は、過去の診療録調査だけの研究ですので、患者さんの生命・健康に直接影響を及ぼさず、患者さんから採取した試料を実験的に用いることはありません。個人情報が特定されることはありません。研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただくことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報はすべて削除いたします。また、研究対象に該当するか否かにより、実際の診療内容に影響はすることはありませんし、研究にご協力いただけない場合でも診療上の不利益を受けることはありません。

もし、このような診療録情報の利用にご承諾いただけない患者さんは、お手数ですが、下記の連絡先までお願いいたします。

連絡先：愛媛県立中央病院 消化器病センター（消化器内科） **碓井 亨**

第 1.0 版

(電話 (代表) : 089-947-1111、FAX: 089-943-4136)